

マーケット概況（2025年11月）

11月の債券相場は、12月利下げ観測の後退により米国債相場が下落した流れを引き継ぎ、10年380回債は前月末比+1.0bpの1.665%で取引を開始した。5日に日経平均株価の大幅下落を受け買いが優勢となり、10年380回債の利回りは1.650%まで低下した。しかし、同日に行われた10年債入札が低調な結果となったことや、株価の反発もあり、相場は反落した。高市政権の掲げる積極財政による財政拡張懸念から超長期債を中心に利回りが上昇し、11日の30年債入札や19日の20年債入札の結果も低調な内容となった。21.3兆円規模の総合経済対策が閣議通過する見通しとの報道から20日に相場は下げ幅を拡大し、10年380回債の利回りは1.835%と2008年6月以来の水準まで上昇した。超長期債は20年194回債の利回りが2.855%と1999年6月以来の水準まで上昇し、30年88回債は3.390%、40年18回債は3.745%と発行開始以来最高利回りを記録した。市場予想を上回る失業率の悪化を受け米国10年債利回りが4%割れとなり、国内相場も一時下げ止まったが、12月の追加利上げ観測の高まりから中期債を中心に再び売りが優勢となった。26日に、5年181回債の利回りは1.340%と2008年6月以来の水準まで上昇した。月末は来年度の国債増発への警戒も加わり、入札の行われた2年479回債の利回りは0.995%と2008年6月以来の水準まで上昇した。結局、10年380回債は1.805%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

11月の短国市場は、早期利上げ思惑後退から金利上昇に歯止めがかかり、6日の6M1342回債入札は前回と同水準の最高落札利回り0.6034%でしっかりだった。7日の3M1343回債は0.4773%だったが2月償還債に買いが入り、0.400%台前半まで金利低下した。14日の3M1344回債入札は0.4632%と落札金利は更に低下し、その後も好需給が続いた。19日の1Y1345回債入札は、0.7546%で前月の1Y入札と同水準だったが、今年度の補正予算規模が17兆円超と報じられると、中短期ゾーンの国債の追加発行が意識され、21日の3M1346回債入札は0.4879%と金利上昇に転じた。28日の3M1347回債入札では0.5576%と3Mの年初来最高金利を更新、2008年10月以来の落札水準となった事に加え、セカンダリーでは0.580%まで売られた。

<一般債市場>

11月の定例地方債は、5年債が前月比1bpタイトニングの国債カーブ対比+10bp、10年債が前月比横ばいの国債カーブ対比+12bpの条件決定となった。10年定例政保債は、前月比横ばいの国債カーブ対比+10bpの条件決定となり、10年政保債・地方債のスプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。入札物の大阪府債については、10年債は定例地方債と同水準だったが、5年債は定例地方債の起債レベルよりタイトな水準での条件決定となるなど良好な需給環境が継続している。11月の事業会社債の発行額は、発行額が小規模な起債が多かったことから前月比1兆円超の減少となる3,909億円となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#380	1.665(4日)	1.650(5日)	1.835(20日)	1.805(28日)
#379	1.670(4日)	1.645(5日)	1.815(28日)	1.790(28日)
#369	1.485(7日)	1.485(7日)	1.615(20日)	1.560(21日)
#181(5Y)	1.235(4日)	1.220(5日)	1.340(26日)	1.315(28日)
#194(20Y)	2.615(4日)	2.595(5日)	2.855(20日)	2.830(28日)
#1336-#1342 TDB(6M)	0.590(6日)	0.580(6日)	0.600(11日)	0.585(19日)
#1341-#1347 TDB(3M)	0.470(7日)	0.420(11日)	0.580(28日)	0.570(28日)